

台・日・中の連携により中国語文化を海外展開する台湾出版グループ、城邦媒体控股集团

傘下に40社以上の出版社を抱える城邦媒体控股集团 (Cite Media Holding Group) は、台湾事業・海外事業ともに、台湾出版業界をリードする存在である。紙媒体の出版から事業の多角化を進めながら中国語文化の発信に努め、積極的に世界展開を図っている。近年では日本および中国の出版社と提携し、デジタルコンテンツを中心に台湾、日本、中国をまたに掛けた事業展開に意欲を見せている。今回は城邦グループの龔汝沁総経理と黄淑貞総経理を訪ね、これまでの事業展開と成長の軌跡、将来の展望についてお話を伺った。



城邦媒体控股集团 龔汝沁総経理(右)と
華雲数位(股)有限公司 黄淑貞総経理(左)

—設立からこれまでの歩みについて

台湾の出版社3社(麦田出版、猫頭鷹出版、商業周刊出版)が株式持ち合いでアライアンスを結成し、1996年に城邦文化事業(股)有限公司(以下、城邦)が設立されました。その後、香港・TOMグループが2001年に台湾における出版事業に進出するにあたり、城邦を出資提携先として選んだことで、城邦は新たな成長フェーズに入りました。買収・合併(M&A)を多数行い、現在では傘下に約40社の出版会社を抱えるまでに成長しています。年間約2,000の新作を出版し、書籍・雑誌の発行数は年2,800万冊を超える台湾最大の出版グループです。

出資母体であるTOMグループ自体もメディア事業を展開していますが、台湾出版市場には精通していません。そこで台湾事業について、企業マネジメントや制度策定、財務面の方針策定のみをTOMグループ側が行い、出版事業については城邦側に完全に任されており、企業運営における役割分担が明確になっています。これが台湾市場における事業成功の鍵となっていると考えています。

城邦は、台湾事業の積極展開に加え、海外事業においても台湾出版業界をリードする存在となっています。日本企業や中国企業との合併を行い、台湾のコンテンツ産業を海外に広げると同時に、クラウドコンピューティングを活用して海外のコンテンツを導入し、台湾市場のニーズに応じています。

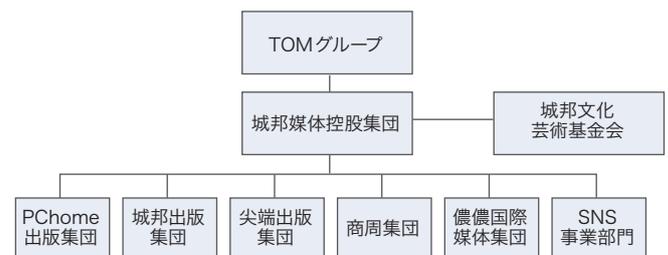
—台湾事業の現状と拡大に向けた戦略について

台湾文化部が今年発表した「台湾出版業発展策略」の報告書によると、2012年の台湾人1人当たりの年間読書量は平均2冊であり、日本や韓国など他の先進国をはるかに下回

ります。また、紙媒体の出版物の市場規模がそもそも小さい上に、業界参入ハードルが低いため、同業者間の競争は極めて熾烈です。過酷な競争環境の中で、城邦もビジネスモデルの転換を迫られ、出版の枠組みを拡大した「メディアミックス」を目指しています。具体的には、書籍や雑誌といった紙媒体だけでなく、これまで蓄積したコンテンツの強みを生かし電子書籍や動画・音声コンテンツ、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)、テレビ番組の制作も手掛ける多角化経営に乗り出し、ユーザーの幅広いニーズに応じています。

多角的なビジネスを行う一方、城邦の中心事業はやはり紙媒体の出版です。傘下の城邦文化芸術基金会を通じ、長年にわたり読書の楽しさを伝える活動も同時に行っています。国際的な非営利組織のワールド・ビジョンなどとも協力し、台湾書籍市場の発展に取り組んでいます。

図：城邦媒体控股集团の組織図



出典) TOMグループウェブサイトよりNRI作成

—国際市場開拓における城邦の強みとは

城邦は、海外事業においても台湾の同業をリードする存在で、香港、中国、マレーシアに進出しています。台湾企業

台湾トップ企業

は華人圏において言語的な強みがあり、中華圏の文化・クリエイティブ分野で最先端を歩んでいます。城邦は台湾を情報の発信地として、言語の強みを生かしながら台湾のコンテンツを世界各地に発信しています。一例として、妊娠・マタニティー・育児・子育て関連の情報誌である「媽媽寶寶 (Mombaby)」は、台湾を制作拠点に、台湾と中国、マレーシアで発行されており、3市場において好評を博しています。

台湾の紙媒体を海外市場で展開するだけでなく、デジタルコンテンツ市場でも世界展開を進めています。特に言論の自由制限のある中国では、紙媒体の出版では外資の参入ができません。中国の海峡出版発行集団と合併で設立した「海峡書局」は、外資として初めて、中国でインターネット出版と高付加価値電信業務の許可を受けた企業となりました。同社を土台に、兩岸の出版事業者がより広い連携ができるよう模索し、紙媒体をコンテンツの基礎とし、デジタル化を通じてインターネットやモバイルデバイスで展開するという「メディアミックス」の経営モデルに取り組んでいきます。

講談社との合併について

2012年に日本の講談社と合併で「華雲数位股份有限公司」を設立しました。台日合併では初のデジタルコンテンツプラットフォームを用いて、中国語訳した日本のコンテンツを提供しています。講談社とは業務上で長い間交流があり、デジタルコンテンツ市場の将来についての見方も一致しています。提携交渉では、短期間に共通認識を得ることができ、事業連携は順調に進んでいます。

日本では携帯電話によるデジタルコンテンツの閲覧が早くから普及していましたが、台湾はスマートフォンの登場でようやく、モバイル機器向けのコンテンツ市場の発展が始まりました。講談社はこれまで日本市場で培ったコンテンツの強みとそのデジタル化のノウハウを提供し、城邦は台湾市場の理解が深いことから市場の嗜好や傾向について情報提供しています。この提携により、講談社にとっては台湾市場への参入ハードルを低くするメリットがありました。

台湾の消費者の間では有料でデジタルコンテンツを閲覧するという考え方が普及していないことは、台湾市場の開拓を目指す企業が直面する共通の課題となっています。城邦は、講談社との連携によりバラエティに富んだ魅力的なコン

텐츠を提供することで、利用者の増加に取り組んでいます。台湾市場では、日本語作品を原作とする書籍が約20%を占めます。華雲数位は今年、クラウド技術を活用したアプリケーションをリリースし、日本のコンテンツを原文のまま提供するサービスを始めました。これにより、翻訳を必要としない台湾のユーザー層に対して迅速に日本のコンテンツを提供するも可能になりました。

今後の事業展望について

現在日本の出版作品の中国市場への展開は、著作権エージェントを通じたものがほとんどです。外資の出版社が100%独資で市場参入することはできません。しかしながら、モバイルデバイスの普及により、デジタルコンテンツ市場は、今後の出版業界の成長の場として注目されています。城邦は華雲数位と海峡書局という2つのプラットフォームを備え、日本と中国のコンテンツを台湾に取り入れるだけでなく、3者間のインタラクティブな交流、さらにより速やかでスムーズなサービスの提供を可能としています。

当社以外の台湾出版事業者にもこのプラットフォームを利用して台湾のコンテンツを海外に発信してもらいたいと考えています。グローバル化が進む中、台湾の出版業界と国際市場の架け橋となって、中国語文化を積極的に伝えていきたいと思っています。

ありがとうございました。

城邦媒体控股集团の基本データ

会社名	城邦媒体控股集团
設立	2001年
資本金	約40億元
社員数	約1,400名
事業内容	書籍、雑誌の出版、ソーシャル・ネットワーク・サービス、デジタルコンテンツのプラットフォーム運営など

出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理